

令和6年三浦半島宮陵会/新年会開催

～会員など48人が参加～

令和6年神奈川大学三浦半島宮陵会の新年会が1月27日(土)10時から、京急横須賀中央駅から徒歩5分の「横須賀市立勤労福祉会館(ヴェルクよこすか)」に会員など48人が参加して開催された。

進行役の鈴木明子幹事(H6中国語卒)の司会で始まった講演会には会員45人が参加し、田原会長(S49年貿易卒)の主催者挨拶に続き、神奈川大学法学部を昭和62年に卒業された、小國徹・横浜市立金沢動物園園長が「そうだ!動物園に行こう～楽しみ方はあなた次第～」と題し1時間20分に渡り講演された。(要旨は2～3頁目)

休憩を挟んで開催された懇親会は、ケイタリング方式で行った。これには5人の女性を含む45人が参加(内2人が初参加)した。岩本善則監事(H3年経済卒)の司会で、原柳作副会長(S46年英文卒)の主催者挨拶に続き、最年少会員の金澤優太幹事(H25年法律卒)の乾杯の音頭で会は始まった。

会では、初参加者2人の自己紹介、最年長会員の川瀬元夫(S31年経済卒91歳)氏、戸塚・栄区宮陵会の武笠健次会長(S41年法律卒)、神奈川区宮陵会の春原正三郎会長(S47年法律卒)、川崎市宮陵会の熊澤明会長(S48年貿易卒)など、県内地域組織からの参加者の挨拶。本会の会員でもある、石渡卓神奈川大学理事長(S51年貿易卒)からの挨拶があった。



↑ 全参加者による記念撮影「ヴェルクよこすか」2024.1.27

ご挨拶

会長 田原 清彦



2024年のお正月は能登半島で大規模な地震が発生し、三浦半島宮陵会の皆様の中にも、お友達やご親戚が被災された方がいるかもしれません。心よりお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興と、日常の生活に戻ることができますよう、お祈り申しあげます次第です。

本日は三浦半島宮陵会新年会にご参加いただき、誠にありがとうございます。神奈川県内の他地域組織の宮陵会からもご参加いただき、また石渡理事長にもご参加いただき、心よりお礼申し上げます。

本日は横浜市立金沢動物園の小國園長に、ご講演をいただくことになっております。どのようなご講演になるのか、大変興味深く思っているところです。ちなみに動物園はZooと称されていますが、これはイギリス・ロンドンにあったZoological Gardenの名前がベースとなり、その略された呼称としてZooが世界に広まったようです。ちなみにZoologicalとは“命あるもの、生きているもの”という意味がありギリシャ語の語源Zwoからきたもので、この単語は動物という意味もあるとのこと。

さて神奈川大学は、4年後の2028年には創立100周年を迎えます。一方三浦半島宮陵会は、2年後の2026年には創立20周年を迎えます。

ほんの170年前の1853年に、浦賀に黒船が来航しましたが、三浦半島は歴史的にも海外との窓口、いわゆるグローバルな日本へのGatewayでもあったという、地理的背景もあり、校歌に歌われる“世界は呼ぶ”という、象徴的な地域でもあります。当会20周年に向けて、母校への愛校心という絆をもとに、若い年代の卒業生を仲間を迎えながら、地域組織としてより活発な活動をしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。 (S49年貿易卒)

会の中盤では催し物として、鈴木豊氏（S60年法律卒）を代表とする20人編成の横須賀市民バンド『ジョイフル・プラス・オーケストラ』の演奏を堪能しながらの楽しい懇親会となった。2時間余りとなった会は、塩塚定雄副会長（S48年貿易卒）の中締めの挨拶、参加者による校歌・応援歌の合唱をもって閉宴となった。（塩塚）



↑ 司会の鈴木明子幹事

↑ 挨拶をする田原清彦会長

講演会開催

「そうだ！動物園に行こう

～楽しみ方はあなた次第～」

横浜市立金沢動物園

園長 小國 徹 氏



<講師略歴> 1959年宮城県生まれ。

農業高校で造園関係を学び、卒業後横浜に。新聞奨学制度を利用して専門学校で公害について学ぶ。1981年12月横浜市立動物園の飼育職員に採用される。1983年から神奈川大学で働きながら法律を学ぶ。1987年卒業後、聴講生として教職、社会教育主事、学芸員の資格を取得。その後、専修大学大学院で環境社会学を専攻。

【講演要旨 / 塩塚定雄（S48年貿易卒 副会長）】

ご講演していただいた小國徹さん。ご経歴でもお分かりのように、大変苦労され、研究熱心なお人柄で、現場で培った豊富な経験に基づくお話が、聴講している私達にも、わかりやすく伝わってきました。

小國さんは金沢動物園の立上げから16年間、金沢動物園に勤務し、横浜市の区役所、局などを経験し2020年に定年退職されますが、同年4月に動物園の指定管理者の横浜市緑の協会に採用され、23年ぶりに金沢動物園に戻

り、園長となって4年目となります。そのような観点から講演を行っていただきました。小國さんの講演内容をかいつまんで報告させていただきます。

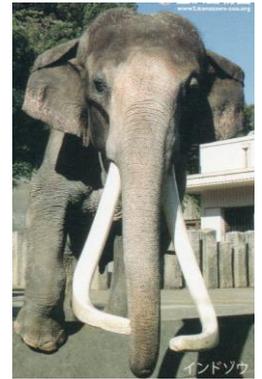
(1) 金沢動物園の歴史

上野動物園が開園して100年後の1982年3月17日に横浜市立金沢動物園が開園しました。

当初はアメリカ区にオオツノヒツジなど3種10点を展示していただけでしたが、3年後にインドソウガ、4年後にはコアラが、平成元年にはアミメキリンが入園し、現在51種1156点の動物を飼育しています。

(2) 金沢動物園の特徴

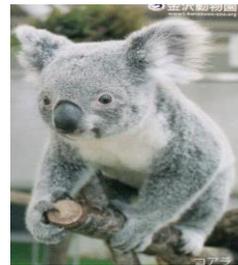
世界の希少草食動物を中心に飼育。柵が無く、堀などで見学がしやすいように工夫する展示の方法をとっています。金沢動物園は釜利谷市民の森内にあり、丘陵地帯のため眺望が良く、1日を通して動物や自然を愛でながら、散策を楽しめます。 インドソウ→



(3) アメリカ区・南アメリカ区・ユーラシア区・オセアニア区・アフリカ区

動物を生息地別にアメリカ区・ユーラシア区・オセアニア区・アフリカ区の4大陸に分け展示しています。

最初(1982年)に公開したアメリカ区では、オオツノヒ



↑ コアラ ツジやカピバラ、ペアードバクが。次(1985年)に公開したユーラシア区では、インドソウ、インドサイ、スーチョウワン、バーラルなどが見られます。

次(1986年)に公開したオセアニア区では、オーストラリアから寄贈されたコアラ、他にワラビー、オオカンガールなどを見られます。このコアラは、しぐさがかわいいと“日本一かわいいコアラ”に認定されました。



↑ アミメキリン

最後(1988年)に公開したアフリカ区では、アミメキリン、クロサイ、オリックスが見られます。

(4) 開園40年で変わったもの・変わらないもの

開園当初と比べると、展示物が変わりました。40年前は木陰がなかったので、夏は大変だったが、今は緑豊かに。展示場の工夫などは、本来の動物らしい生活が出来る様にしている。これは変わってはいけないもので、インドゾウの展示の工夫などが認められ、エンリッチメント大賞で敢闘賞を受賞したなどです。

(5) 動物園の4つの役割

「豊かな地球を未来へ引き継ぐために、動物園から社会を変えていく」として4つの役割を果たすように努めています。1は、レクリエーション=出会いを感じる。動物に魅せられ、共に生きることの大切さを感じられる公園としての役割。2は、調査研究=理解し学ぶ。動物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有する役割。3は、教育普及=知り伝える。動物や生息環境のことを多くの人々に伝え、行動につなげる役割。4は、種の保存=守り続ける。世界と手を取り合って、野生動物を計画的に守っていく役割です。

(6) 開園40周年クラウドファンディング実施

実績としては、54日間で824人、944万1800円を達成。開園40周年を記念して園の象徴である、インドゾウの「ボンとヨーコ」に自動給水装置を購入・設置してプレゼントをした等でいます。

(7) 園内のSDGs

コーヒーかすを動物の寝室に敷き、においの除去に努める。竹林を整備した竹をゾウの餌にし、その糞を堆肥にするなどSDGsに取り組んでいる。

(8) 認定希少種保全動物園

動植物園等の設置者又は管理者からの申請により、希少野生動植物種の取り扱いが種の保存に資するものとして、一定の基準に適合した動植物園等を、種の保存法の認定により認定するもので、認定された金沢動物園は、希少野生動物種の個体の譲渡等について、環境省とのやりとりをしないで済むようになっていきます。

貴重なお話をたくさん伺いました。いろいろな工夫で、見て楽しい、行って楽しいを、心掛けていらっしゃるのだと思いました。ご講演有難うございました。



↑ 講演されている小國園長

懇親会開催

懇親会には、5人の女性を含む45人が参加、内2人が初参加となるなど、盛会の新年会となった。以下、その模様を写真でご紹介します。



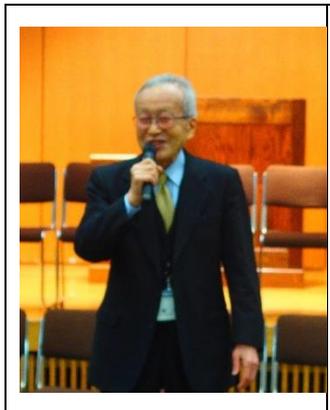
↑ 挨拶する原副会長

↑ 乾杯の音頭の金澤幹事





↑ 自己紹介する初参加の新入会員 ⑤的野氏 ⑥石井氏



↑ 挨拶する最年長の川瀬氏 ↑ 挨拶する石渡卓理事長



↑ 市民バンド『ジョイフル・プラス・オーケストラ』の演奏



↑ 中締の塩塚副会長



↑ 司会の岩本監事

三浦半島宮陵会同好会通信

～活動状況・予定等を紹介します～

● ゴルフ会世話人: 佐藤 武 (S46年経済卒)

メールアドレス: minami-sugar@nifty.com



連絡先: 090-3147-0105

オープンコンペは、卒業生に関わらず、どなたでも参加できます。ゴルフ好きの友人やご家族をお誘い合わせのうえ、気軽に参加ください。

第47回三浦半島宮陵会オープンコンペが2023年10月18日(水) 爽やかな秋晴れのもと、葉山カンツリー倶楽部に2組8名が参加して行われました。

優勝は長島保雄氏、準優勝は古敷谷均氏、3位は佐久間克己氏が受賞しました。



「今回、三浦半島宮陵会ゴルフ会のオープンコンペに参加させて頂き、荣誉ある優勝を

⑤ 長島氏 ⑥ 鈴木氏

頂きました。昭和55年3月建築学科卒業というより、吹奏楽部卒業の長島保雄と申します。先輩諸氏のお誘いでの初参加でしたが、優勝を頂けるなど思ってもおらず、楽しい会話の中で力むことなく、一緒にプレーをして頂いた古敷谷先輩、中川先輩、佐藤美佐男先輩には、本当に感謝しています。ゴルフでの優勝は、人生初めてで良い経験をさせて頂きました。ありがとうございました。学生時代は同世代で、学科やサークルを通じ、全国に今でも繋がっている多くの仲間を作ることが出来ましたが、今はこの三浦半島宮陵会を通じ、同じ地域で同じ大学出身者の皆様と繋がれることは、本当にありがたいことと、ご尽力頂いている役員の皆様に感謝申し上げます。」(ご本人のコメント)

次回「春のコンペ」は、5月8日(木)葉山国際カンツリー倶楽部を予定しています。(佐藤武)



● テニス会世話人: 小池邦夫 (S38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com



連絡先: 090-8811-5079

テニス会定例会は、現在原則として毎週木曜日午後1時から3時まで大津グランド・テニスコート(京急新大津下車)で行なっています。

ひと汗かいた後のアフター・テニスも良いのではないですか。初心者も歓迎です。皆様の参加をお待ちしています。

我が仲間の久根口昭二(S59年法律卒)さんが、令和5年11月9日に亡くなりました。享年72歳でした。



久根口さんは9年前に、地域の青少年育成指導員と一緒にしていた本会副会長の西脇幸二さんの紹介で当会に入会し、2年前から会計担当の副会長としても、貢献されていました。テニスの会にも参加され、久根口さんの仲介で始まった、地域の方と一緒に楽しむ現在の定例会の発起人でもありました。

温厚な方で、その性格はテニスのプレーにも表れていました。病気を克服し、再びコートで対戦することを願っていましたが残念でなりません。あらためて、仲間一同より、謹んで、ご冥福をお祈りいたします。(塩塚)

●歩こう会世話人:内藤正久(S51年機械卒)
メールアドレス:naitoumasahisa@hotmail.com

連絡先:090-6479-3297

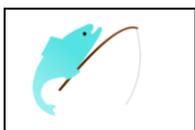


歩こう会は、会員は勿論のこと、ご家族やお友達の方々にも参加していただける楽しい会です。

当会は、年2回(春・秋)歴史や話題性のあるテーマを決めて歩いたり、三浦半島の景勝や自然を楽しんだりしています。同時に、会員の交流にも重点を置いて企画しております。

次回の歩こう会は4月21日(日)、今年の新年会で講演会講師を引き受けてくださった、小國徹園長のご案内で「横浜市立金沢動物園見学会」を行います。詳細は別紙同封のご案内をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

●つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)
メールアドレス:s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先:090-5581-1043
現在休止中です。

釣り好きの皆様、お声掛けください。一緒に楽しみませんか。これから3月、4月、5月と夏にかけて眠った魚が目を覚ますではありませんが、アオリイカ、アジ、メバル、カサゴ、アイナメ、ヒラメ、マゴチ、サワラ、カンパチなど、魚種も増え、堤防からも狙うことができますよ。

歩こう会「荒崎 シー&フラワーコース」報告

異常な暑さがまだ残っていた2023年10月1日(日)晴天の中、三浦半島の「荒崎海岸」と「ソレイユの丘」の花々を見に、歩こう会を開催した。参加者は6名(ご夫婦1組)だった。

参加者は、9時に京浜急行三崎口駅改札口に集合し、9時15分発の荒崎行バスに乗り込んだ。また車内では、幹事が用意した荒崎公園とソレイユの丘のパンフレット、当会が作成したボールペンを参加記念として受け取った。

25分で「荒崎」バス停に到着し、徒歩7分で荒崎公園に着いた。晴れて暑い風があり、日陰は比較的涼しかった。残念ながら富士山は望めなかったが、夕日の丘展望台からの眺望は、相模湾を一望できて素晴らしい。



↑ 荒崎海岸にて

次にソレイユの丘に向かい、ゆっくり30分ほど歩いて到着した。まず日陰のベンチで水分を補給し、参加者同士で近況などを話して、すっかり打ち解けた。

園内はキバナコスモスが咲き、ピンク色のコスモスが咲き始めたところだった。例年だとコスモスが一面に広がっている時期だが、今年は暑すぎて開花が遅れていたようだ。30分程自由時間を設け各々園内を散策してもらった後、冷房の効いた施設で事前にご購入した昼食を取った。12時30分にソレイユの丘の「海へ繋がる散策路」の階段を下りて海岸に出て、砂浜を歩いて長浜海岸方面に向か

った。砂浜は歩きにくい、波打ち際は比較的歩きやすい。ときたまやってくる大きな波に濡れないように注意しながら、長浜海水浴場の端まで歩いた。久々に波打ち際を歩いたので、楽しかった。



↑ ソレイユの丘にて

車道に出てから京急バス「矢作入口」バス停まで25分ほど歩き、13時25分にバス停で解散した。

事前の天気予報では、気温が落ち着くはずだったが、晴れるとやはり暑かった。熱中症に注意しながらの歩こう会は、海よし、景色よし、仲間よしの、会だった。(内藤)

**第100回箱根駅伝応援記
2024年1月2日・3日開催**

第100回記念となる東京箱根間往復大学駅伝競走は2024年1月2日・3日に23大学で開催された。総合優勝は青山学院大学が10時間41分25秒の新記録で7回目の優勝。2位駒澤大学、3位城西大学となり、神奈川大学は11時間7分37秒で21位と振るわなかった。

年々レベルアップし、記録が塗り替えられていく。交通量の多い東海道を走るの、トップとの差が開けば、繰り上げスタートとなるのはやむを得ないことで、離されない努力をしなければならない。

トップの青山との差は26分余り、1からのスタートとなるが、新監督を迎えたのを契機に、4年後の創立100周年を目指し、計画的なチームの立て直しに期待したい。

コロナ禍で沿道応援が自粛されていたが、3年ぶりに沿道応援が復活。三浦半島宮陵会はJR保土ヶ谷駅前での応援を2日、3日おこなった。



←2024.1.2 保土ヶ谷駅前。左から塩塚、西脇、古川、砂川氏の各氏。



↑ 2024.1.3 保土ヶ谷駅前にて ↓



県内ブロック・他地域組織から

**三浦半島宮陵会・新年会に参加して
川崎市宮陵会**

会長 熊澤 明氏



川崎市宮陵会の熊澤明と申します。令和5年6月に小林正前会長から引き継がせていただいております。

私は、63歳まで湘南信用金庫でお世話になっておりまして、大黒埠頭でシステム部門に勤務の後、10年前までは横須賀中央駅まで通勤しており

～ 編集後記 ～

ました。久しぶりに来てみると、なつかしさと同時に、遠い道のりでもあったと感じました。

新年会では参加者も多く大変盛会で、横浜市立金沢動物園の小園園長による金沢動物園の創設当初からの紹介など興味深く拝聴いたしました。広々とした懇親会場ではステージがあり吹奏楽の演奏に楽しいひと時を過ごし、神奈川大学の石渡理事長も会員の1人として参加されており、箱根駅伝の内情などお話を伺えました。

川崎市宮陵会は、41年間休眠状態が続いておりましたが、宮陵会本部の手厚いサポートをいただき平成31年3月に再建総会を開催することができました。その際、当時の鈴木和夫会長、原柳作事務局長のお二人にもご参加いただきました。誠にありがとうございました。今後ともお付き合いをよろしくお願い致します。(S48年貿易卒)

〈本会のホームページについて〉

アドレス <http://miurahanto.blog.shinobi.jp>



神奈川大学三浦半島宮陵会のHPのアドレスは上記のようになっていますが『神奈川大学三浦半島宮陵会』でも検索できます。今後とも魅力のある

HPにして参りますので、ご覧になってご活用ください。

なお、SNS系の鈴木明子幹事さんの方では、TwitterとLINEを使って、会員や同級生の方々とのやり取り等、情報共有に役立てられるようにして頂いています。Twitterはアカウントができれば「神大OB会@三浦半島」をフォローしてください。アカウントは「@kyuryo_miura」です。ご不明の点はメールで natukodati@gmail.com 迄

2024年度 三浦半島宮陵会の集い
開催予告！！

2024（令和6）年度「三浦半島宮陵会の集い（総会・講演会・懇親会）」を7月7日（日）にヴェルクよこすか（京急横須賀中央駅下車・徒歩5分）で開催します。是非スケジュール表にお加えください。

ご案内の往復ハガキは、6月上旬に郵送いたします。たくさんのご参加をお待ちしております。（事務局より）

本号では先日開催された、本会の新年会の模様などを紹介させていただきました。本誌は本号で34号となりました。今後更に、皆様に好評をいただける紙面にしたいと思います。感想等お寄せください。

さて、2月15日は横須賀市が117年前の1907（明治40）年に、市制を施行し、誕生した日です。

横須賀市は神奈川県では横浜市に次いで2番目、全国では29番目に市制を施行しました。現在日本にある市町村数1,718（内792市）ですので、当時有数な都市であったことが伺えます。ご存じでしたか？

この度、市制記念日に合わせて、居酒屋店主の斎藤秀一さんの著作『地名の由来知っているかい？ 知れば知るほどもっと楽しい横須賀散歩』を、興味を持って購読した。

その中で“三浦”に由来する地名についてみると、最初に登場するのが、692年日本書紀で「二羽の朱いカラスの雛が“御浦”で捕まり」とあり、万葉集では、「御宇良崎」と記されているところから始まると。

「浦」という文字は、入り組んだ海岸を表し、3つの浦に囲まれていた半島から「三浦」と言われ「御浦」や「御宇良崎」に発生したと思いますと紹介されていました。

その他、いろいろな地名の由来が紹介されています。改めて自分の育った町の歴史を、この本を通して知ることが出来ました。

今回の発行分は、横須賀北部地域ですが、市制記念日ごとにあと2巻発行され、横須賀全体の地名の由来が明かされることになるそうです。



3年かかりで出版計画をされているとのことで、「お互い元気に頑張りましょう」と、声を掛け、この本に市井の歴史家、斎藤さんのサインを貰った次第です。（塩塚）



↑ 横須賀市田浦梅林から長浦港の眺め 2024.3.9 発行